

鶴田 直之、(工学部)、甲斐勝二(人文学部)、鈴木 学(教育開発支援機構)、須長 一幸(教育開発支援機構)、紺田 広明(教育開発支援機構)
 期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

概要

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ(学問的技法)を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

第1回目の合同ガイダンスの際に、受講生を5チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。ここでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

到達目標

入門的なアカデミックスキルズ(「読む、聞く、話す、書く」能力)を活用できる。(知識・理解)

合同ゼミでは、チーム単位で根拠の有無や実現性、効果、論理性を踏まえた提案ができ、またチーム単位で表現を工夫して提案内容を発表することができ、更に論点を踏まえて的確な質疑応答ができる。(技能)

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(技能)

以上の活動において、授業に積極的な態度で参加でき、また仲間と協調してゆく姿勢をとることができ、更に集合時間や締め切りを守るといった規律ある行動ができる。(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する(30分)。次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする(60分)。授業で習得したアカデミックスキルズを他の授業等の学習に活用する(60分)。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

成績評価基準および方法

定期試験は行ないません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容(根拠の有無、実現性、効果、論理性)と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク(協調性)をチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

テキスト

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

参考書

『福大生のための学習ナビ』(福岡大学 教育開発支援機構)
 『「言葉の力」育成の手引』(福岡大学 教育開発支援機構)
 佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』(慶應義塾大学出版会) ISBN 978-4-7664-1960-3
 その他、授業中に適宜、紹介します。

履修上の留意点

このアカデミックスキルズゼミは講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

授業計画

回 授業内容

1 担当者全員、合同ガイダンス(スタートアップ授業)

2~13「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は5チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2021年度アカデミックスキルズゼミ授業予定表」をWebシラバスの「添付ファイル」欄に添付しているため、参照してください。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。なお、5名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

甲斐(中国文学)、読む：映像を読もう、聞く：他者の理解に耳を傾けよう、書く：他者の理解を踏まえて自分の考えを言葉にしよう、話す：資料と共に自分の考えを発表しよう

紺田(心理学)、読む：自己分析から自分を理解しよう、話す：自分の言葉で他者に伝えよう、聞く：他者の話を聞き視野を広げよう、書く：これからの目標をまとめよう

鈴木(学習科学)、読む：『思考の整理学』冒頭文を読み込もう、書く：冒頭文の構成を書き出そう、話す/聞く：構成を発表し合い、自他の考えを共有しよう、聞く/話す：質問し合い、皆が納得する構成を考案しよう

須長(科学哲学)、聞く：大学の「ルール」を知ろう、書く：大学と高校の授業の違いを考えよう、読む：より深く考えるための読み方を学ぼう、話す：意見交換の技術を知ろう

鶴田(情報科学)、読む：文章の構造を手掛かりに読もう、書く：批判を基に自分の意見を考えよう、話す：自分の意見を構造化して伝えよう、話す・聞く：学んだことをチームでまとめよう

14,15 担当者全員、合同ゼミ

スタートアップ授業

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/a3jzrr05mtepvdp0fjd3wt9maahi722>

添付ファイル

2021年度アカデミックスキルズゼミ 授業予定表
 (シラバス授業予定表(火5).pdf)

寺田 貢、道山 治延（法学部）、関口 浩喜（人文学部）、永田 潔文（理学部）

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとりえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

スタートアップ授業の後に、受講生を4チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。ここでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。第14回と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

- - - 到達目標 - - -

入門的なアカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を活用できる。（知識・理解）

合同ゼミでは、チーム単位で根拠の有無や実現性、効果、論理性を踏まえた提案ができ、またチーム単位で表現を工夫して提案内容を発表することができ、更に論点を踏まえて的確な質疑応答ができる。（技能）

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。（技能）

以上の活動において、授業に積極的な態度で参加でき、また仲間と協調してゆく姿勢をとることができ、更に集合時間や締め切りを守るといった規律ある行動ができる。（態度・志向性）

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する。（30分）次回の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする（60分）。授業で習得したアカデミック・スキルズを他の授業等の学習に活用する（60分）。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験は行ないません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク（協調性）をチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

- - - テキスト - - -

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

- - - 参考書 - - -

福大生のための学習ナビ
アカデミック・スキルズ ISBN 978-4-7664-1324-3
新版論理トレーニング ISBN 978-4782802113
その他、授業中に適宜、紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

このアカデミックスキルズゼミIIは講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミ もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

- - - 授業計画 - - -

1回 担当者全員 イン트로ダクション（スタートアップ授業）

2回～13回

「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割および教室は第2回目開始までに通知します。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。

なお、4名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

関口（人文）、読む：文章のポイントをつかもう、話す：的確に質問しよう、話す：的確に批判しよう、書く：自分の意見を的確に表現しよう

永田（理）、聞く：ノートを取ろう、集める：文献を集めよう、読む：文献を読もう、書く・話す：自分の意見を書いて発表しよう

道山（法）、聞く：ノートをとろう、読む：文献を読もう、書く：ペーパーを書いてみよう、話す：意見を交換しよう

寺田（理）、読む：ひらがなだけの文をかな漢字文に変換する、書く：視覚的な情報（図形）を文章で説明する、話す：話すだけで情報を伝える難しさに気付く、聞く：聞き返すことにより情報が伝わりやすくなることを知る

14～15回 担当者全員 合同ゼミ

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/5i6loexbw3m29o6q1fxace3pzafyusgm>)

永田 潔文、大上 麻海(商学部)、道山 治延(法学部)、関口 浩喜(人文学部)、吉田 秀幸(薬学部)

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

概要

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法（アカデミックスキルズ）」を多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミでは「思考と発想のレッスン」という事で、順序立てて考える習慣を身につける事や、新しいアイデアを得るための方法を学ぶ事に重点を置きます。また、この授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を学ぶ事ができます。

この授業では受講生を5チームに分けます。それぞれのチームが3名の教員から3回ずつ授業を受けることとなります（第3回目から第11回目）。ここでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをゼミの参加者全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、それを今後の大学での学修に応用する力を身につけます。

第12回目と第13回目のゼミで、全てのチームはそれまでに学んだアカデミックスキルズを応用して、共通の1つの課題に取り組みます。第14回目と第15回目のゼミで、各チームはその結果を発表し、全員で議論します。

また学期中の2回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をします。その後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

到達目標

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見を相手にわかりやすく述べる、グループで決めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協調して1つの課題に取り組む、等の方法を身につける。(技能)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を習得する。(技能)

2回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(技能)

順序だてて考える習慣を身につける。(態度・志向性)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身につける。(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

かならず復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次の授業で質問するようにしてください(90分)。また、次の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで(90分)、授業に臨んでください。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

成績評価基準および方法

定期試験は行いません。第3回目から第13回目までの授業では、欠席の有無、ゼミでの発言の内容（多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか）や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑応答内容、チームワークをチーム単位で評価します。

2回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他の人の文献からの剽窃は大幅な減点となります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

テキスト

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

参考書

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf>

『「言葉の力」育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf>

その他、授業中に適宜、紹介します。

履修上の留意点

このアカデミックスキルズゼミは講義形式の授業とは異なり、参加する皆さんが主役となって作りあげてゆく授業です。担当教員が講義する場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨むことが求められます。皆さん自身が主役の授業ですから、無断欠席は大幅な減点の対象となります。欠席する場合には授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい（次の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であってもかならず次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認すること）。

なお、もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

授業計画

回授業内容

1イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）

2合同ガイダンス、アイスブレイキング（担当者全員）

3～11「概要」欄に書いたように、3回目から11回目までは、受講生は5チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組み合わせはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2021年度アカデミックスキルズゼミ 授業予定表」、ならびに「チーム分け表」を、第2回が始まるまでにFUポータルの授業紹介「添付ファイル」欄に添付しますので、参照してください。詳細は第2回の授業で説明します。なお、5名の教員は以下に記載する授業内容を3回の授業で実施します。

関口(人文学部)：一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。友人ができないという悩み：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。友人ができないという悩み：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。

永田(理学部)：グループ学習のツール、ロール、ルールについて学ぶ。

グループで取り組む課題を探し、決める。議論の発散と収束の手法を学ぶ。調査結果を発表し、課題解決に取り組む。KJ法を学ぶ。課題解決に取り組んだ成果を発表する。

大上(商学部)：読む：組織とはなにか 調べる：組織で実際に働くとはどういうことか 議論する：調べた内容について議論し意思決定する

発表：プレゼンテーションを行う

吉田(薬学部)：命を育む：頭を柔らかくする。命を守る：グループで考える。命を長らえる：物事を多面的に捉える。命を考える：発表し、討論する。

道山(法学部)：読む/調べる：「できちゃった結婚」って何？ 意見を交換しよう：「できちゃった結婚」の何が問題？ 調べよう：世界の「できちゃった結婚」 まとめよう：グループで結論

12,13共通課題グループワーク(担当者全員)

14,15合同ゼミ(担当者全員)

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/x4doaft2mfpplgqc77bs1j3tqbsj4kai>)

添付ファイル

授業予定表

(2021年度アカデミックスキルズゼミ 授業予定表.xlsx)

須長 一幸、甲斐勝二、鶴田直之、紺田広明、鈴木学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

概要

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法（アカデミックスキルズ）」を多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミでは「思考と発想のレッスン」という事で、順序立てて考える習慣を身に付ける事や、新しいアイデアを得るための方法を学ぶ事に重点を置きます。また、この授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を学ぶ事ができます。

第1回目の合同ガイダンスの際に、受講生を5チームに分けます。そして、それぞれのチームが3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります（第2回目から第13回目）。ここでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをゼミの参加者全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、それを今後の大学での学習に応用する力を身に付けます。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講者全員が1つの教室に集まって、それまでに学んだアカデミックスキルズを実地に应用する課題に取り組みます。学期中の3回のミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

到達目標

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見を相手にわかりやすく述べる、グループで決めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協調して1つの課題に取り組む、等の態度や方法を習得する。(技能)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を習得する。(技能)

3回のミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成できる。(技能)

順序だてて考える習慣を身に付ける。(態度・志向性)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身に付ける。(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

かならず復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次の授業で質問するようにしてください(90分)。また、次の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで(90分)、授業にのぞんでください。また、レポートは、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成してください。

成績評価基準および方法

定期試験は行いません。

第2回目から第13回目までの授業では、欠席の有無、ゼミでの発言の内容(多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか)や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑応答内容、チームワークをチーム単位で評価します。

3回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他の人の文献からの剽窃は大幅な減点になります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ5割、1割、4割とします。

テキスト

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

参考書

『福大生のための学習ナビ』(福岡大学 教育開発支援機構)

<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf>

『「言葉の力」育成の手引』(福岡大学 教育開発支援機構)

<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf>

その他、授業中に適宜、紹介します。

履修上の留意点

このアカデミックスキルズゼミは講義形式の授業とは異なり、参加する皆さんが主役となって作りあげてゆく授業です。担当教員が講義する場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくことになります。その意味で、授業には積極的な姿勢でのぞむことが求められます。皆さん自身が主役の授業ですから、無断欠席は大幅な減点の対象となります。欠席する場合には授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい(次回の授業に向けた課題がでている場合があります)。授業後であってももかならず次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認すること。

なお、もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミIもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

授業計画

回 授業内容

1
合同ガイダンス(スタートアップ授業)

2~13
「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は5チームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはチームによって異なります。各チームの担当教員割を記載した「2021年度アカデミックスキルズゼミII 授業予定表」をWebシラバスの「添付ファイル」欄に添付しているため、参照してください。詳細は第1回目の合同ガイダンスで説明します。なお、5名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

須長(科学哲学)： レポートと感想文の違いを知る レポートを通じて思考を深める レポートは何のためにあるのかを考える レポートを作成する手順を踏まえる

鶴田(情報科学)： 開発の思考と発想：チームで考える 開発の思考と発想：何を作るか設計する 開発の思考と発想：作る工程を設計する 開発の思考と発想：開発を管理する

甲斐(中国文学)： 歌を考える 歌の理解を語ろう(選択した歌の分析と説明)(1) 歌の理解を語ろう(2) 歌の理解を語ろう(3)

紺田(心理学)： エビデンスのある評価を考える データを批判的に読み取る 評価を体験する 心理的な測定を通じて思考を深める

鈴木(学習科学)： 目標を管理する：コンピテンシーの理解 優先順位をつける：モデルの考案 発散させる：パフォーマンスの記述 収束させる：ルーブリックの設計

14,15 合同ゼミ(担当者全員)

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ln4nodwdyowln8pj6z3mlj1zt1fzeaea>)

添付ファイル

2021年度アカデミックスキルズゼミII授業予定表
(2021年度後期ASゼミII予定表.pdf)

植上 一希、藤野真、鈴木学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2021/07/23 3時限

- - - 概要 - - -

本講義は1年生を対象に行う。
 中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいるが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりにいれながら習得していく。

その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的立場やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。

それをもとに、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

- - - 到達目標 - - -

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(知識・理解)

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(技能)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと(毎回1時間程度)。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

「レポート課題」2回(6割)、「Microsoft Forms」(2割)、「定期試験」(2割)で評価する。

上記に関しては、授業をふまえて授業内で用いたキーワードや考え方を効果的に用いていることを評価の基準とする。

また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを多く実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある(加点)。

なお、出席状況や受講態度も考慮する。

- - - テキスト - - -

植上一希・寺崎里水・藤野真『大学生になるってどういうこと? 学習・生活・キャリア形成』大月書店、2014年。

- - - 参考書 - - -

講義の中で随時紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

適宜資料を配布する。それらを常に見返すことができるようにファイリングを怠らないようにすること。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
大学生になるってどういうこと
2. 大学生になるってどういうこと
なぜ大学生になったのか(3章)
3. 大学生になるってどういうこと
未来について考える
4. 大学生になるってどういうこと
先輩に聞く大学生活の送り方・学び方
5. 大学生になるってどういうこと
大学における文章の書き方(1)
6. 大学生になるってどういうこと
大学での学習を支援する教務課
7. 大学生になるってどういうこと
大学における文章の書き方(2)
8. 大学生になるってどういうこと
大学生の学びの特質(4章)
9. どのような大学生になりたいか
10. どのような大学生になりたいか
学生生活を支援する学生課・HDセンター
11. どのような大学生になりたいか
キャリア形成を支援する就職・進路支援センター
12. どのような大学生になりたいか
キャリア形成を支援するエクステンションセンター
13. どのような大学生になりたいか
課題作成「どのような大学生になりたいか」
14. どのような大学生になりたいか
授業全体のふりかえり
15. どのような大学生になりたいか
課題作成のふりかえり

<すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する>

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/wyn6q5bdhaz4a8fg6l558hmg1vid3ikr>

植上 一希、藤野真、鈴木学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り
 授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：2021/07/23 3時限

- - - 概要 - - -

本講義は1年生を対象に行う。
 中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいるが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりにいれながら習得していく。

その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的立場やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。

それをもとに、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

- - - 到達目標 - - -

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(知識・理解)

大学卒業後のキャリア形成と大学生生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(技能)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業に関する参考文献等の予習や復習を適宜指示するので、必ずそれを行うこと(毎回1時間程度)。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

「レポート課題」2回(6割)、「Microsoft Forms」(2割)、「定期試験」(2割)で評価する。

上記に関しては、授業をふまえて授業内で用いたキーワードや考え方を効果的に用いていることを評価の基準とする。

また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを多く実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある(加点)。

なお、出席状況や受講態度も考慮する。

- - - テキスト - - -

植上一希・寺崎里水・藤野真『大学生になるってどういうこと? 学習・生活・キャリア形成』大月書店、2014年。

- - - 参考書 - - -

講義の中で随時紹介する。

- - - 履修上の留意点 - - -

適宜資料を配布する。それらを常に見返すことができるようにファイリングを怠らないようにすること。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
大学生になるってどういうこと
2. 大学生になるってどういうこと
なぜ大学生になったのか(3章)
3. 大学生になるってどういうこと
未来について考える
4. 大学生になるってどういうこと
先輩に聞く大学生活の送り方・学び方
5. 大学生になるってどういうこと
大学における文章の書き方(1)
6. 大学生になるってどういうこと
大学での学習を支援する教務課
7. 大学生になるってどういうこと
大学における文章の書き方(2)
8. 大学生になるってどういうこと
大学生の学びの特質(4章)
9. どのような大学生になりたいか
10. どのような大学生になりたいか
学生生活を支援する学生課・HDセンター
11. どのような大学生になりたいか
キャリア形成を支援する就職・進路支援センター
12. どのような大学生になりたいか
キャリア形成を支援するエクステンションセンター
13. どのような大学生になりたいか
課題作成「どのような大学生になりたいか」
14. どのような大学生になりたいか
授業全体のふりかえり
15. どのような大学生になりたいか
課題作成のふりかえり

<すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する>

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
<https://fukuoka-u.box.com/s/cphm5rnam0nzhzh44wz3936o5plf3mdr>

香野 淳、檜垣 靖樹、須長 一幸、鈴木 学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

- - - 概要 - - -

皆さんがこれから4年間（6年間）を過ごす「大学」とは、一体どんな場所なのでしょう。また、福岡大学はどんな大学なのでしょう。この授業は、新入生の皆さんを対象に「大学」という魅力ある世界へいざなう、「大学入門」の科目です。

授業の第1回目はスタートアップ授業として、この科目で学ぶ内容の概略を説明するとともに、朔学長の講義をじかに聴く機会を設けています。福岡大学の歴史と理想とする教育や研究について、学長が自らの熱い想いを語ります。

第2回～第11回では、学内組織の長を務める先生方（ゲストスピーカー）による講義を聴講し、グループワークを行います。講義テーマおよび内容は、大きく「福岡大学でいかに学ぶか」と「福岡大学を学ぶ」の2つに分けられます。「福岡大学でいかに学ぶか」をテーマにした授業では、大学での学習の姿勢と方法とについて学びます。大学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域全体が一体となって共に成長・発展することを目指します。「Rise with Us」。この言葉に、その思いを込め、次代を担い社会を支える有為な人材になるように、まず、大学生としての学習の基本を身につけてください。もう一つの「福岡大学を学ぶ」をテーマにした授業では、福岡大学の建学の精神や教育研究の理念をはじめ、福岡大学の組織、地域社会における役割、日本・世界への貢献などを学びます。この後半の授業を受けることを通じて、福岡大学に関する知識を身につけ、福大生であることの意味について考えてください。また、少人数に分かれておこなう各回のグループワークでは、講義内容について他者の考えや意見を聴き、議論を通して自分自身の理解を深めていきます。

第12回～第15回では、それまでに学んだ内容を題材として、グループに分かれて調査、討論を行い、福岡大学で学ぶ意味や福岡大学で学び方について皆さんが主体となって考え、深く掘り下げていきます。最後は、グループごとにワークの成果をまとめて発表を行います。

グループワークは、他の参加者と協調しながら、みずからの意見を練り上げ、その意見を明確な言葉で表現するという姿勢と能力とを身につけてもらうためです。積極的に参加する意識が求められます。

- - - 到達目標 - - -

大学での授業を受けるために必要な事柄（ノートのとり方、授業における積極的な姿勢等）が身につく。（態度・志向性）

授業の内容を要約し、自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。（技能）

福岡大学の歴史、組織や役割、地域や社会に対する貢献など福岡大学について学んだこと、また自分の今後の学びに対する意味を説明することができる。（知識・理解）

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

・授業内容に関連する事項を講義の前にあらかじめ調べる。（60分）
 ・ノートや講義時に配付された資料を読み返すこと。調査課題等がある場合は次回に提出、発表できるように課題に取り組むこと。（60分）

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験のない科目です。毎回の授業でミニツッペーパーを提出してもらいます。また、授業期間中にまとめたレポートを提出してもらいます。ミニツッペーパーでは、各授業の内容を要約し、他者に分かるように書かれているかどうかを評価します。またレポートについては、授業内容に基づき、課題について十分に資料を調べ、その上で自分の考えをきちんと記述しているかどうかを評価基準とします。グループ発表では討論によって考えを深め、まとめてあげて、他者に分かり易く伝えることができているかどうかを評価します。

ミニツッペーパーとレポートの記述内容を総合的に評価し、この授業の成績とします。評価の割合は、ミニツッペーパーが60%、レポートが20%、授業内での積極的な態度と発言が10%、グループでの発表が10%です。

ミニツッペーパーやレポートなどは必ず期限までに提出しなくてはなりません。レポートが未提出でその後のグループワークに影響が出る場合には不合格になることがあります。また、出席してグループ学習に取り組むことが必須です。そのため、欠席が3回をこえた場合には不合格になることがあります。

- - - テキスト - - -

・講義で配付する資料

配付資料がある場合はFUポータルにも掲載しますので、万一欠席した場合には、かならずポータルから配付資料を入手してください。資料がないと課題や次回の授業の準備ができなくなることがあります。

- - - 参考書 - - -

・『福大生のための学習ナビ』福岡大学、2021年学習ナビは、新入生には入学前に郵送、あるいは入学時に配付されます。
 その他、各回の講義に関連する書籍等があります。必要に応じて、それぞれの担当者が講義の中で紹介します。

- - - 履修上の留意点 - - -

この授業のテーマごとの講義は「オムニバス形式」で実施します。オムニバス形式とは、複数の先生方の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生はそれぞれ異なる内容の講義を行いますので、1回でも欠席すれば、その内容の講義を全て聞き逃してしまうこととなります。欠席しないようにしてください。

また、講義内容を筆記するノートの他に、資料を整理するファイルケースやパンター等を必ず準備してください。

この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない、など）を守って受講しましょう。

- - - 授業計画 - - -

第1回（スタートアップ授業）
 福岡大学の歴史とこれからの展望を語る
 （朔啓二郎福岡大学長）
 授業のガイダンス
 （香野共通教育研究センター長）

第2回（4/13）：
 『福まな』の学び方
 （須長教育学修支援室長）
 グループワークの取り組み方
 （鈴木教育学修支援室員）

第3回（4/20）：
 大学での学問—学習ナビを活用しよう—
 （有岡教育開発支援機構副機構長）、
 共通教育を学ぶ意味
 （香野共通教育研究センター長）

第4回（4/27）：
 大学での学問と図書館
 （永星図書館長）
 福岡大学のICTサービスを知る・使う・役立てる
 （末次情報基盤センター長）

第5回（5/11）：
 大学の外国語教育を通して学ぶべきもの
 （有馬共通教育研究センター長補佐）
 グローバル化とグローバル人材育成
 （三島国際センター長）

第6回（5/18）：
 大学での課外活動の意義
 （梅井学生部長）
 エクステンション教育の意義 - 福岡大学における正課外教育としての役割 -
 （北坂エクステンションセンター長）

第7回（5/25）：
 福岡大学の教育と役割
 （加留部副学長）

第8回（6/1）：
 大学における研究
 （野田研究推進部長）

第9回（6/8）：
 スポーツと健康と地域社会
 （田中副学長）

第10回（6/15）：
 大学とキャリア形成 - 就職・進路を考える -
 （衰輪就職・進路支援センター長）

第11回（6/22）：
 講義内容のまとめ - 大学生としての自分を確認しよう -
 （檜垣教務部長）

第12回（6/29）：グループワーク 【役割決め、初期討論、調査】
 第13回（7/6）：グループワーク 【調査結果発表、討論、まとめ】
 第14回（7/13）：グループワーク 【まとめと発表練習】
 第15回（7/20）：グループ発表

檜垣教授、香野教授、須長准教授、鈴木准教授の4名は、それぞれの講義に加え、グループワークのコーディネーター役等として全15回の授業に参加します。

注）受講人数やグループ数によって、第14回の授業内容がグループ発表に変更になることがあります。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/42bj80fdkgxr2a73ugxehngmr9w1mv4v)

香野 淳

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
 授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

皆さんがこれから4年間（6年間）を過ごす「大学」とは、一体どんな場所なのでしょう。また、福岡大学はどんな大学なのでしょう。この授業は、新入生の皆さんを対象に「大学」という魅力ある世界へいざなう、「大学入門」の科目です。

授業の第1回目はスタートアップ授業として、この科目で学ぶ内容の概略を説明するとともに、朔学長の講義をじかに聴く機会を設けています。福岡大学の歴史と理想とする教育や研究について、学長が自らの熱い想いを語ります。

第2回～第11回では、学内組織の長を務める先生方（ゲストスピーカー）による講義を聴講し、グループワークを行います。講義テーマおよび内容は、大きく「福岡大学でいかに学ぶか」と「福岡大学を学ぶ」の2つに分けられます。「福岡大学でいかに学ぶか」をテーマにした授業では、大学での学習の姿勢と方法とについて学びます。大学の第一の使命である教育について、「共育」の字を充て、学生、教職員、卒業生そして地域全体が一体となって共に成長・発展することを目指します。「Rise with Us」。この言葉に、その思いを込め、次代を担い社会を支える有為な人材になるように、まず、大学生としての学習の基本を身につけてください。もう一つの「福岡大学を学ぶ」をテーマにした授業では、福岡大学の建学の精神や教育研究の理念をはじめ、福岡大学の組織、地域社会における役割、日本・世界への貢献などを学びます。この後半の授業を受けることを通じて、福岡大学に関する知識を身につけ、福大生であることの意味について考えてください。また、少人数に分かれておこなう各回のグループワークでは、講義内容について他者の考えや意見を聴き、議論を通して自分自身の理解を深めていきます。

第12回～第15回では、それまでに学んだ内容を題材として、グループに分かれて調査、討論を行い、福岡大学で学ぶ意味や福岡大学で学び方について皆さんが主体となって考え、深く掘り下げていきます。最後は、グループごとにワークの成果をまとめて発表を行います。

グループワークは、他の参加者と協調しながら、みずからの意見を練り上げ、その意見を明確な言葉で表現するという姿勢と能力とを身につけてもらうためです。積極的に参加する意識が求められます。

--- 到達目標 ---

大学での授業を受けるために必要な事柄（ノートのとり方、授業における積極的な姿勢等）が身につく。（態度・志向性）

授業の内容を要約し、自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。（技能）

福岡大学の歴史、組織や役割、地域や社会に対する貢献など福岡大学について学んだこと、また自分の今後の学びに対する意味を説明することができる。（知識・理解）

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

・授業内容に関連する事項を講義の前にあらかじめ調べる。（60分）
 ・ノートや講義時に配付された資料を読み返すこと。調査課題等がある場合は次回に提出、発表できるように課題に取り組むこと。（60分）

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験のない科目です。毎回の授業でミニツッペーパーを提出してもらいます。また、授業期間中にまとめたレポートを提出してもらいます。ミニツッペーパーでは、各授業の内容を要約し、他者に分かるように書かれているかどうかを評価します。またレポートについては、授業内容に基づき、課題について十分に資料を調べ、その上で自分の考えをきちんと記述しているかどうかを評価基準とします。グループ発表では討論によって考えを深め、まとめて上げて、他者に分かり易く伝えることができているかどうかを評価します。

ミニツッペーパーとレポートの記述内容を総合的に評価し、この授業の成績とします。評価の割合は、ミニツッペーパーが60%、レポートが20%、授業内での積極的な態度と発言が10%、グループでの発表が10%です。

ミニツッペーパーやレポートなどは必ず期限までに提出しなくてはなりません。レポートが未提出でその後のグループワークに影響が出る場合には不合格になることがあります。また、出席してグループ学習に取り組むことが必須です。そのため、欠席が3回をこえた場合には不合格になることがあります。

--- テキスト ---

・講義で配付する資料

配付資料がある場合はFUポータルにも掲載しますので、万一欠席した場合には、かならずポータルから配付資料を入手してください。資料がないと課題や次回の授業の準備ができなくなることがあります。

--- 参考書 ---

・『福大生のための学習ナビ』福岡大学、2021年学習ナビは、新入生には入学前に郵送、あるいは入学時に配付されます。
 その他、各回の講義に関連する書籍等があります。必要に応じて、それぞれの担当者が講義の中で紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

この授業のテーマごとの講義は「オムニバス形式」で実施します。オムニバス形式とは、複数の先生方の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生はそれぞれ異なる内容の講義を行いますので、1回でも欠席すれば、その内容の講義を全て聞き逃してしまうこととなります。欠席しないようにしてください。

また、講義内容を筆記するノートの他に、資料を整理するファイルケースやパンター等を必ず準備してください。

この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない、など）を守って受講しましょう。

--- 授業計画 ---

第1回（スタートアップ授業）
 福岡大学の歴史とこれからの展望を語る
 （朔啓二郎福岡大学長）
 授業のガイダンス
 （香野共通教育研究センター長）

第2回（9/30）：
 『福まな』の学び方
 （須長教育学修支援室長）
 グループワークの取り組み方
 （鈴木教育学修支援室員）

第3回（10/7）：
 大学での学問—学習ナビを活用しよう—
 （岡教育開発支援機構副機構長）、
 共通教育を学ぶ意味
 （香野共通教育研究センター長）

第4回（10/14）：
 大学での学問と図書館
 （永星図書館長）
 福岡大学のICTサービスを知る・使う・役立てる
 （末次情報基盤センター長）

第5回（10/21）：
 大学の外国語教育を通して学ぶべきもの
 （有馬共通教育研究センター長補佐）
 グローバル化とグローバル人材育成
 （三島国際センター長）

第6回（10/28）：
 大学での課外活動の意義
 （梅井学生部長）
 エクステンション教育の意義 - 福岡大学における正課外教育としての役割 -
 （北坂エクステンションセンター長）

第7回（11/4）：
 福岡大学の教育と役割
 （加留部副学長）

第8回（11/11）：
 大学における研究
 （野田研究推進部長）

第9回（11/18）：
 スポーツと健康と地域社会
 （田中副学長）

第10回（11/25）：
 大学とキャリア形成 - 就職・進路を考える -
 （衰輪就職・進路支援センター長）

第11回（12/2）：
 講義内容のまとめ - 大学生としての自分を確認しよう -
 （檀垣教務部長）

第12回（12/9）：グループワーク 【役割決め、初期討論、調査】
 第13回（12/16）：グループワーク 【調査結果発表、討論、まとめ】
 第14回（12/23）：グループワーク 【まとめと発表練習】
 第15回（1/6）：グループ発表

檀垣教授、香野教授、須長准教授、鈴木准教授の4名は、それぞれの講義に加え、グループワークのコーディネーター役等として全15回の授業に参加します。

注）受講人数やグループ数によって、第14回の授業内容がグループ発表に変更になることがあります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
 (https://fukuoka-u.box.com/s/x9v4zqi2inp0ff0hsf5h9e7qea4vxzdd)